

< もくじ >	
1. 2018年度定時総会・第17回大会開催のお知らせ	1~2
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 各研究会の概要報告	3~5

1. 2018年度定時総会・第17回大会開催のおしらせ

すでに会員の皆様に総会資料と大会プログラムをお送りいたしました。2018年度の定時総会と第17回大会は、以下の日程で開催されます。会員はもちろん、大会には非会員を含めてぜひ多くの方々のご参加をお待ちしております。詳細についてはプログラムをご参照ください。

(1) 日程・会場

- 1) 開催日時：2018年6月23日（土）
- 2) 開催場所：駒澤大学（駒沢キャンパス 1号館 1-202 教室）
（東京都世田谷区駒沢一丁目23番1号）

「駒沢大学駅」は田園都市線で渋谷から3つ目（三軒茶屋方面）ですが、急行は停まりません。

(2) 第一部：2018年度定時総会（10：00～11：10）

今年度は、総会議事の他に役員改選があり、臨時理事会後、新役員を紹介します。

(3) 第二部：第17回大会（11：30～16：45）

- 1) 本年度大会テーマ：「支え合うコミュニティの共創—格差と分断を超えて—
持続可能な超高齢社会をめざしてⅢ」
- 2) 会員からの提言
司会：長田攻一（当学会理事）
★碓 正義（当学会会員）
★安田和紘（当学会理事）
- 3) 基調講演：「支え合うコミュニティの共創—格差と分断を超えて—」
★辻 哲夫（東京大学特任教授）
- 4) パネルディスカッション
司会：袖井孝子（当学会会長）
★瑠璃川正子（荻窪家族創設者）
★近山恵子（一般社団法人コミュニティネットワーク協会理事、当学会会員）
★羽賀 睦（NPO法人ワークスコープ東関東事業本部）
☆鶴飼英昭（千葉県佐倉市中志津町住民）

(4) 第三部：懇親交流会（17：00～18：30）

駒澤大学 種月館学生食堂内個室

- ※ 2018年度定時総会・第17回大会の招集状は5月14日にクロネコDM便にて会員の皆様にお送りしましたので、ご確認下さい。
同封のハガキに住所・氏名・総会出欠（欠席の場合は委任状になりますので必ず投函ください）
・合わせて大会及び懇親交流会の出欠を記載の上、62円の切手を貼って6月4日までに投函ください。

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第110回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年5月23日（水） 18：00～20：00
- 2) 講 師：宮澤 仁（お茶の水女子大学准教授）
- 3) テーマ：「地域に見える化と地理空間解析～健康・医療・福祉へのGISの応用～」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ご質問がございましたら、佐藤まで。 090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp
なお、6月はお休みです。

(2) 第55回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年5月24日（木） 15：00～18：00
 - 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
 - 3) テーマ：濱口座長のレクチャー — 「老いのパスポート II」
 - 4) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）迄お願いします。

(3) 第48回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年5月29日（火） 18：30～20：30
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
 - 3) 報告者：長田 攻一（災害と地域社会研究会座長、会員）
 - 4) テーマ：郊外地域におけるマンション自主防災組織の特質と課題
—千葉県佐倉市ユウカリが丘4丁目自主防災委員会を事例として—
 - 5) 参加費：当分の間、頂戴しません。
- ※ お問い合わせは、福原（fukuhara@jaas.jp）までお願いいたします。

(4) 第24回「シニアのICT活用」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年6月15日（金） 14：00～16：00
- 2) 場 所：（公財）ダイヤ高齢社会研究財団 会議室
新宿区新宿一丁目34番5号 VERDE VISTA 新宿御苑 3階 <http://dia.or.jp/access>
- 3) 話題提起者：高島雅夫
（健康生きがいづくりアドバイザー、スマホ・スタディ・サークル主宰）
- 4) テーマ：
仮題「高齢者へスマホ普及の試み～スマホ・スタディ・サークル（SSS）を事例に～」
- 5) 参加費：500円

※ 参加のご連絡は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。
なお、「シニアのICT活用研究会」は、毎月第3金曜日 14：00～16：00
ダイヤ高齢社会研究財団 会議室にて開催します。詳細は、HPでもご案内します。

(5) 第49回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年6月19日(火) 18:00～20:00
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
 - 3) 報告者：浅野幸子(減災と男女共同参画研修推進センター共同代表、専修大学非常勤講師)
 - 4) テーマ：未定
 - 5) 参加費：当分の間、頂戴しません。
- ※ お問い合わせは、福原(fukuhara@jaas.jp)までお願いいたします。

(6) 第3回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年6月22日(金) 18:00～20:00
 - 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9F ラウンジ
 - 3) テーマ：「リタイア後をより良く生きるために」
 - 4) 参加費：500円
- ※お問い合わせは中村(nakamura@jass.jp)までお願いいたします。

3. 各研究会の概要報告

(1) 第1回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2018年4月17日(木) 18:30～21:00
- 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内、日本記者クラブ9F ラウンジ
- 3) 参加者：7名 皆川、庄司、小平、柴田、中村、山本、小川(敬称略)

(80代1名 70代3名 60代2名 50代1名) 女子2名 男子5名

初回でもあり、自己紹介をかねて、この研究会でやりたい事、取り上げて欲しいことを和気あいあいとした雰囲気の中で、話し合った。先ずはラウンジで、茶話会風に始まり、途中レストランに移動して夕食をはさみ、終始なごやかで自由闊達に、それぞれの問題意識を出し合いながら議論が進んだ。第一回ということもあり、研究会の今後のやり方、進め方、方向性などを模索する話し合いとなった。今後、月例会にて、テーマを設けて研究会を持つ方向で次回につなげていくこととなった。

～以下問題意識の抜粋～

男シングルの生活になり「生活の自立」の重要性を自覚。一人暮らしの終活をいかに生きるか？ 次世代へのバトンタッチをいかにすべきか？ 多世代協働の現場の情報共有。シニア世代のジェンダー研究。シニア(男・女)の暮らしの研究。コーチング等のツールを活かして、講座コンテンツの開発、活用。(3rdエイジの方々向けの講座コンテンツの事業化も有り得る)。3rdエイジにおける複業・副業の具体的事例研究。老後の経済の問題。超高齢・人口急減社会における価値観の変化とその多様な現況の考察。生涯学習・市民大学等について。首都圏と地域の3rdエイジ世代の意識の相違の調査&分析も。

※3rdエイジとは？

1st エイジ＝教育期 2nd エイジ＝社会を担う生産期 3rd エイジとは現役引退、あるいは子育て終了後の20年以上の期間のことを言う。3rdエイジを生産的に老いる(就業という有償労働のみならず、ボランティア活動、介護、孫育てなどの家庭内役割などに積極的に取り組む)ことが今後益々求められてくる。(小平・中村 記)

(2) 第22回「シニアのICT活用」研究会の報告

- 1) 日 時：2018年4月20日(金) 14:00～16:00
- 2) 場 所：ダイヤ高齢社会研究財団 会議室
- 3) 報告者：森 やす子 (当学会理事、情報環境デザイン研究所)
- 4) テーマ：高齢者のインターネット利用と社会関係 ―ICT第一世代に着目して―

これまでの研究成果をまとめ、この度博士の学位を取得されましたので、その研究成果から抜粋す

る形で、報告をしていただきました。

インターネット普及率の推移は、年齢で見ると増加していますが生まれ年で見た場合はほとんど変化していません。そして、今、一人暮らし高齢者は増加しているという背景があります。今後、高齢者がインターネットをより積極的に利用していくために、インターネットの利用につながる社会関係を含めた周囲の環境、利用による社会関係への影響についての検討が必要と述べました。

そして検討の結果として、地域社会のつながりの中での高齢者の ICT 利用では、物理的な距離の近い地域社会のネットワークの重要性を認識し、その再構築の必要性があること。新しいコミュニケーションメディアは、生活スタイルや社会関係に影響し、今までのネットワークを越えた新たなつながりを作り出す可能性がある、としました。

今後の検討課題として、旧来のコミュニケーションメディアに慣れ親しんだ世代への対応、これから高齢期を迎える世代が利用する新しいコミュニケーションメディアの影響、地域社会のつながりの中での高齢者の ICT 利用などと述べました。 (森 記)

(3) 第47回「災害と地域社会」研究会概要報告

- 1) 日 時：2018年4月24日(火) 18:30~20:30
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：野坂 真(早稲田大学文学学術院 助手)
- 4) テーマ：岩手県大槌町における住民層ごとの地域生活ビジョンの再構築と連携

—地方での災害復興過程を読み解く視点の提示—

報告概要：東日本大震災の多くの津波被災地域での災害復興過程について、岩手県大槌町安渡地区を対象に調査研究に取り組んでいる野坂さんは、今回、これまでと少し視点を変えて、大槌町の被災者個人の生活再建よりは、「住民層」ごとの生活再建ビジョンと、住民層ごとの連携による生活ビジョンの再構築過程に注目しました。その考察の背景として、①地域の歴史的開発・地域振興の経緯、②オイルショック以降の水産業の停滞、釜石市新日鉄の経営合理化による人口減少・少子高齢化・経済停滞の歴史を振り返ります。その過程でとられてきた「持続可能なまちづくり方針」の下で推進力となった水産業者と自治会・町内会の動きを中心に据えて、住民層を①大規模事業所サラリーマン・専門職層、②中小零細企業経営者・商店主層、③中小零細企業従業員層、④農林漁業者層に分類し、各住民層の生活ビジョンと、①地域活動、②文化活動、③産業活動における連携事例を整理し、それらが停滞状況の中ではありながら震災前の大槌町の各住民層の役割分担が明確になされ連携がとれていた状況をまとめています。

その上で、東日本大震災による被災でそれらの住民層の生活ビジョンと連携メカニズムがどのような影響を受けたかを見ていくと、各住民層の生活ビジョンの分化が進み、それぞれの住民層の生活ニーズの変化を十分に把握することも難しくなっていた状況が理解できるようになるとしています。そして、震災後の町政による復興基本計画と仕事の再開と住宅再建の政策が実施される過程のなかで、避難生活期、仮復旧期、復興期における住民層ごとの典型的な生活パターン、連携の仕方について整理していくと、研究対象地域の災害復興過程を新たな視点から見直すこととなります。つまり、住民層の違いに注目して、避難生活期、仮復旧期、復興期それぞれの時期における、住まい、生業、地域コミュニティの実態を把握するとともに、それらの住民層相互の連携の在り方を見ていくことによって、震災以前の地域社会の維持メカニズムとの連続性と断絶過程をより明確にすることにつながり、現在の復興過程のさまざまな連携の試みを新たな視点から評価できるよう思われます。

しかしながら、震災前の住民層のカテゴリーと震災後の住民層のカテゴリーの変化を詳細に記述していくことや、その変化の要因を明確にしていくこと、さらには災害復興期に収斂していく各住民層の生活再建ビジョンと相互連携のための焦点がどのように定められるのか、また研究対象地区である安渡地区は地域社会のいくつかの中心とどのような関係になっていくのか、今後検討すべき課題は多いように見受けられます。(長田 記)

(4) 第109回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2018年4月25日(水) 18:00~20:00
- 2) 講 師：遠藤織枝(元文教大学教授・「看護と介護の日本語研究会」顧問)
- 3) テーマ：「介護の日本語教育の課題」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

東池袋1-44-3 池袋 I SPタマビル 8階

介護における日本語が注目されるようになったのは、2008年から始まったEPA(経済連携協定)によってインドネシアから看護介護人材が来日した時からである。当時は、短期間の日本語教育が行われた程度で、現場に出ることになり、かなりの困難に直面した。彼らは、施設で3年間の研修を経たのちに介護福祉士の国家試験を受け、合格すれば就労が可能であったが、日本語の壁が厚く、合格率は低かった。その後、介護福祉士国家試験の問題が改善され、合格率は上がっている。介護人材不足を解消するために、2017年11月から技能実習生制度に介護が加わったが、厚生労働省が現場での日本語教育と介護教育に補助金を出しているEPAと違って、実習生の教育研修の費用を国が負担することは一切なく、すべて、監理団体と受け入れ施設に委ねられているため、今のところ実際に申請している団体は少なく、日本語能力に不安を抱く施設側も様子見の状態である。目下、介護に特化した日本語能力試験の作成にとりかかったところである。

外国人介護従事者には、①現場スタッフや利用者・家族とのコミュニケーション、②介護技術・知識習得のため、③報告・記録など書類作成のための日本語能力が求められる。しかし、利用者の滑舌が悪く、方言があり、多様なオノマトペが使われるため、コミュニケーションが難しい。介護現場では、難解な専門用語が使われ、短縮語・省略語が多様されるため、外国人には理解困難である。介護の日本語教育を改善するためには、①受け入れ施設の支援体制の標準化、②留学生や介護志望の在住外国人への支援、③介護用語の平易化、標準化の推進が必要である。さらに、外国人の日本語を理解し、わかりやすく伝えるよう日本人の意識改革が求められる。

介護人材が不足しているにもかかわらず、介護職を希望する日本人は少なく、外国人介護従事者の受け入れ態勢は整備されていない。先行き不安ばかりが募る日本の現状である(袖井孝子 記)

(5) 第54回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2018年4月26日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：問題提起と討議 — 「老いのパスポート」を考える

先ず、安田和絃コーディネーターから「老いのパスポート」を考える～『君たちはどう生きるか』高齢者版～』とのタイトルで、「人生100年時代」の人生のデザインをどう作って行くべきかについて問題提起が行われた。老いるとはどういうことかその意味を考え、次に老いを上手に全うするには高齢者はどうあらねばならないか、そして望ましい高齢者像とは何かが語られた。活発な討議の後、濱口座長は「老いのパスポート」ということについて、生きるために様々な関門があり、その関門を通過するために、幾つかのパスポートを持つ必要があるとコメントされた。

(島村 記)

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX:(03) 5778-4728
eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp URL: <http://www.jaas.jp/>